

校内別室指導支援員による肯定的な教育支援

不登校生徒の状況

対象生徒は、家庭環境や本人の課題など、様々な理由から、昼夜逆転してしまい、朝起きられずに遅刻や欠席が増えた。登校すれば教室に入ることができる。人間関係は良好だが、遅刻や欠席が増えたため学習が定着していない。校内別室を利用し、課題と向き合う時間をつくったり、学習支援を行ったりして登校意欲を高めている。

具体的な取組

○校内別室の活用

当該生徒の実態を踏まえ、利用時間は原則1日1時間というルールを設けた。限られた時間だが、話をしたり、自学に励んだり、分からない箇所を質問するなど、当該生徒の居場所となった。



○学力定着や生活リズムを整える取組

家庭学習の定着や自学の力を付けるねらいで「自主学習ノート」を作成した。また、当該生徒が自分で健康管理することをねらいとして「健康カード」に取り組んだ。当該生徒の取組に担任や支援員から肯定的なコメントを返した。



○学習支援の取組

当該生徒が、在籍学級で過ごしているときには、校内別室指導支援員が巡回し、観察や教室内支援を行うようにした。教科担任以外の大人がサポートすることで安心して授業に取り組むことができた。



○組織的な支援を行うための支援会議

月に1回は不登校支援委員会として、当該生徒の情報交換を行い、丁寧に手だてを協議し、学校で対応を行った。当該生徒に対して、アセスメントシートによる困り感の解消、勉強のコツが記された校内作成の自主学習の手引きを配布し、自立して学習に取り組めるような指導を継続して行った。

成果

校内別室があることで登校後の居場所の選択の幅が増え、安心して登校できる日数が増えた。校内別室指導支援員が教室での支援を合わせて行うことで、当該生徒と信頼関係が築くことができ、校内別室を活用した登校支援につなげることができた。

課題

生活習慣の改善に向け、引き続き「健康カード」を活用することで家庭との連携を図っていく。